

⑫ 教員研修	地区で取り組む「がん教育」のための教員研修		
研修場面	市現職研修委員会保健部研修会	研修時間	70分
テーマ	がん教育の推進と養護教諭の役割「学校でのがん教育の必要性や行う際の注意点」		
外部講師	がん専門医		
対象者及び参加人数	1 教職員（市内校長 2名 ・ 市内養護教諭 68名） 2 関係機関（市教育委員会指導主事 1名 ・ 教育事務所指導主事 1名）		
ねらい	市保健部養護教諭部会では、「がん教育の推進と養護教諭の役割」をテーマに研究を進めている。中学校2年生では保健体育科の授業でがんに関する学習の機会もあるので、どのように学校でがん教育を推進していくことが望ましいかについて専門的な立場の方から学び各学校のがん教育の推進に向けて養護教諭として働きかけをしたい。		
実施内容	<p>【事前の準備・打ち合わせ等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月実施した研修会(小学校実践のVTRから学ぶ)事後アンケート結果から、養護教諭として今後がん教育をどのように推進していくべきかという質問が多くあった。その内容を講師の方にご相談をして、内容を決定して準備を進めた。(打ち合わせは、メールを活用) <p>【当日の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日は、講師から『① がん教育の振り返り ② がん教育で大切にしたいこと ③ 協働にあたっての注意点』の3点について、講義を行っていただいた。緩和ケアに関する内容のお話も聞かせていただいた。外部講師をお招きしてがん教育を進める際の心構えや配慮の点、がん教育から「いのち」を学ぶことなど、学ぶ点が多くあった。 		
成果・感想	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートより、研修会参加者の参考度(4段階)は、「大変参考になる 53.8%」「参考になる 46.2%」という結果であった。2年前に「がんに関する基本的知識」の講義を受け、現在取り組んでいる学校の疑問点の整理につながった。 <p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導する立場としても、がん教育は敷居が高く、難しいイメージをもっていました。「原因不明のがんもあるが、生活習慣に気をつけることで、がんのリスクを下げるができる。しかし、喫煙や飲酒も悪いことばかりではなく、ダメ絶対ではない。」という先生のお話から、将来子供たちが、自分自身の健康を考え、行動を選択するための基礎を学ぶことが大切だと強く感じました。また、命は引き継がれていくというお話から、がんを題材に命の尊さについて実感できる手立てを取り入れた授業を行いたいと感じました。 ・いろいろな家庭環境の子どもがいて、がん教育を行うのは、敷居が高く感じていたが、がんを題材として命の大切さを考える指導をしていけばよいということをおっしゃっていて、なるほどと思いました。 ・小学校で、がん教育を行うと生活習慣のことを伝えることになり、生活習慣に気をつけていればがんにかからないというメッセージを与えがちになるが、気をつけていてもかかることはある。予防は大切だが、どうしようもないことがあることを伝える必要があるというお言葉がとても腑に落ちました。 ・がんは、中学校では保健体育科の学習で教科学習として生徒は学んでいます。「がん教育」という表記になると、何か特別なことをしないといけないのかと感じていました。しかし、先生のお話の中でがんという病気が症状の変化が分かりやすく、健康や命の大切さを扱いやすいとお話されたことから、教科学習を補うような形でがん患者や経験者の声を伝える場面を作ることが養護教諭としてがん教育に携われることの一つではないかと自分なりに考えました。 		
今後の取組予定	学校におけるがん教育の取組に対し、学校の実情に応じて進めている。体育科や保健体育科の知識の部分と並行して、道徳や学校保健委員会など様々な機会に行うことも視野におき、学びを進めていく。また、本日の学びを養護教諭から各学校へ伝達するための資料を整理する。再来年の研究発表に向けてさらに研究内容を整理していく予定である。		